

遮光型カゴ網における混獲事例の報告

片岡友美 ・ 林真帆 ・ 佐藤方博 （NPO 法人生態工房）

遮光型カゴ網（モンドリ）は滋賀県水産試験場が開発したブルーギルの捕獲ワナである。既にこのカゴ網は各地の様々な水域で使用され、ブルーギルの効率的な駆除にあたっては非常に有効な捕獲方法の一つとして知られている。発表者らも2008年から都市公園の止水域（0.7ha）において、ブルーギルを対象とした遮光型カゴ網による駆除を行っている。2009年もまた5月から10月までに同所で計35回のワナ掛けを行い、1回あたり20個から40個のカゴ網を仕掛けた。このカゴ網による結果は、当然のことだがブルーギルが最も多く捕獲された。しかし、ブルーギル以外にもウシガエルの成体と幼生、アメリカザリガニ、カメ類、魚類、ゴイサギなどの生物が在来種・外来種に係わらず捕獲されることがしばしばあった。

ある水域において効率的な外来生物の防除とともに、既に生息している生物の種間関係による個体数のバランスと生態系の順応的管理を両立させることは非常に困難かつ重要な課題である。ある水域における外来生物の侵入状況によっては特定の外来種1種を対象とした防除よりも、同所的に生息する複数の外来種を同時に駆除することが適当と考えられる場合もある。しかしながら、一般市民による駆除活動の実践においては、複数の外来種を対象としたいくつかの捕獲方法を並行したり、数種類の捕獲ワナを購入して同時に仕掛けることは資金的・労力的な限界がある。

よって、発表者らは最小限のコストで複数の外来種を対象とした防除を行う手法として、遮光型カゴ網の汎用性を高めることに着目した。本発表では遮光型カゴ網による混獲事例と仕掛け場所や捕獲時の状況などを報告し、カゴ網の設置条件と混獲される生物の因果関係を検証するための情報を提供する。